

IPO銘柄 UMNファーマ (4585・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
4585	100株	公募: 215.0万株 売出: 70.0万株 (OA42.75万株)	1,300円~1,600円 (-)	野村証券

※ 11月30日付で公募およびOAによる売出株数を変更 (従来は、公募272.0万株、OA51.3万株)

■ 日程



タンパク発現技術「BEVS」をコアに、感染症領域の医薬品を開発

■ 事業内容

昆虫細胞などを用いたタンパク発現技術「BEVS」をコア製造プラットフォームと位置づけ、インフルエンザワクチンなどの感染症領域を中心とするバイオ医薬品の開発・製造を行う。米PSC社から日本国内におけるインフルエンザワクチンの独占事業化権を取得。筆頭株主でもあるIHI (7013) と原薬の製造で協定を結んでおり、個別のパイプラインでは国内で第Ⅱ相臨床試験が完了する「UMN-0502」「UMN-0501」でアステラス製薬 (4503) と共同開発している。フィンランドの研究センターから組換えノロ・ロタ感染性胃腸炎ワクチン「UMN-2003」の独占事業化権も取得済み。医薬品開発の単一業態。

■ 特徴

製造実験施設として横浜研究所、生産技術研究施設として秋田工場を保有していることに加え、実生産施設として岐阜工場が13年3月に竣工予定。開発だけでなく、グループ内での製造体制構築に向けて整備を行っている。

アナリストコメント

■ 定量分析

12年12月期の連結経常損益は26億900万円の赤字を見込んでいる。今期は秋田、岐阜両工場への設備投資負担も響く。他のバイオベンチャーと同様に開発費負担が先行して収益は赤字だが、提携戦略によりパイプラインの進ちょくは着実。

■ 定性分析

第Ⅱ相臨床試験が終了しているパイプラインを2つ有していることが評価ポイント。また、IHIやアステラス製薬といった東証1部上場の有力企業とアライアンス関係にあることから、他のバイオベンチャーと比較して信頼感もある。

■ 需給状況

公募価格 (1,300円) で試算した市場からの吸収金額は約42.6億円。アーリーステージでの資金需要の大きなビジネスモデルということもあり、ベンチャーキャピタル保有株も多大。既存市場におけるバイオ株人気は追い風だが、需給評価には疑問符がつく。
(小泉健太)

■ 類似企業

UMNファーマ(4585・マザーズ)	予想PER 一倍 (仮条件上限)
カイオム・バイオサイエンス (4583・マザーズ)	予想PER115.9倍
シンバイオ製薬 (4582・JASDAQ)	予想PER 一

■ 引受証券

野村証券、SMBC日興証券、いちよし証券、みずほ証券、東海東京証券、エース証券、高木証券、マネックス証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
10年12月期(実績)	2,000	—	349	—	383	—	94.6	—
11年12月期(実績)	1,000	▲50.0	-1,080	赤転	-477	赤転	-106.9	—
12年12月期(会社予想)	100	▲90.0	-2,609	—	-1,991	—	-416.8	—

※ 11年8月に株式分割(1株→50株)を実施。10年12月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
10年12月期	85,232	5,436	2,113	2,734	457.8	35.9	19.7
11年12月期	4,516,600	3,812	2,824	3,206	533.5	63.2	—

※ 10年12月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	IHI	453,250	8.46
2	アピ	400,000	7.47
3	京大ベンチャーNVCC1号投資事業有限責任組合	264,000	4.93
4	野村アール・アンド・エー第二号投資事業有限責任組合	262,500	4.90
5	ネオステラ1号投資事業有限責任組合	225,000	4.20
6	Protein Sciences Corporation	225,000	4.20
7	あきたアカデミーベンチャー育成投資事業有限責任組合	170,000	3.17
8	投資事業有限責任組合アステック・テクノロジー・インキュベーション・ファンド	170,000	3.17
9	ジャフコV2共有投資事業有限責任組合	157,000	2.93
10	IHIプラントエンジニアリング	141,800	2.65

経営陣

役職	氏名
取締役会長	道下 眞弘
代表取締役社長	平野 達義
取締役(臨床開発部長)	中田 文久
取締役(生産開発部長)	中村 正
取締役(財務部長)	橋本 裕之
取締役	伊藤 正春
取締役	成清 勉
監査役(常勤)	高木 淳一
監査役	加藤 久満
監査役	加藤 凱信

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO（※1）レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング（※2）が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。